

## ニュース

### Apimedita2006 開催

Apimedita2006（第1回国際アピセラピーフォーラム）が2006年10月12～15日ギリシアの首都アテネで開催される。この会議は、アピモンディアのアピセラピー委員会とギリシア科学アピセラピーセンターの共催で、アピセラピー分野を網羅する規模の大きな国際大会として実現の運びとなった。

アピセラピー素材となる各生産物ごとに、それぞれ権威とも呼べる著名な研究者が講演者として集められている。代表的なところではアピセラピー委員長のCherbuliez博士（アメリカ）、Molan教授（ニュージーランド）、Bogdanov博士（スイス）、Mateescu博士（ルーマニア）、Bankova博士（ブルガリア）、Hegazi教授（エジプト）などなどで、日本からは、山梨県の内藤博文氏が参加、「日本における蜂毒治療」について講演の予定となっている。

会議では、技術的な進歩による近代医療の中での養蜂生産物利用の拡大、耐性菌問題など近代医療が抱える問題への回答としての代替医療としてのアピセラピー、また開発経費の大きな新薬では救えない世界の大多数の人々のための医療としてのアピセラピーなどが討論される。

対象は、医療関係者や研究者、行政関係者、普及開発従事者などで、当日まで参加申し込みは可能である。会議の詳細および参加申し込みに関しては下記サイトから。

<http://www.apimedita2006.gr/>

ミツバチ科学研究施設のwebサイトにも関連情報を掲載の予定。

### 医療用途でのハチミツ会議

マレーシア北部ケランタン州コタバルーのサイン・マレーシア大学医療科学部が主催する、第1回ハチミツの医療用途に関する国際会議が、8月26～28日に開催される。創傷治療をはじめとして、ハチミツの医療での用途は拡大しているが、本会議は、この点に限定した国際会議として開催される。詳細は下記サイトで。

<http://www.honey2006.kk.usm.my/>

なお、この会議の招待講演者であるニュージーランド・ワイカト大学のMolan教授（写真）が、会議に先立って来日し、8月21日には、コンビタ・ジャパン社の主催セミナーで、マヌカハチミツの抗菌活性およびハチミツの創傷治療における有用性について講演を行った。



### IUSSI2006 開催

IUSSI2006（第15回国際社会性昆虫学会）が、アメリカ・ワシントンDCで7月30～8月4日に開催された。玉川大学からも学生を含めて10名が参加し、9題のポスター発表を行った。会議の詳細、参加記事は今後の号で掲載する。

**編集後記** ハチミツブームといわれてしばらく経つが、一般にはまだまだその熱が冷めないようで、今年は春からハチミツに関する依頼講演を5つも受ける羽目になった。近年は残留問題など品質面での研究ばかりが目立っていたが、このニュース欄にもあるように国際的にはアピセラピーあるいは医療現場でのハチミツが注目を集めている。今号では、ミツバチの系譜に関わる、あるいは分類学的な研究のいくつか掲載した。表紙に写真を使わせていただいた Engel 博士の化石は、かつての日本にオオミツバチがいたことを示すもの。それも含めたミツバチの系譜のとりまとめを本学のポストドクの高橋博士にお願いした。参考図書として紹介した Asian Honey Bee を含め、アジアのミツバチもハチミツに負けず劣らず「熱い」ようである（純）